

13章 総合問題13

問題

【1】

A.

全訳

経済の法則は、引力と同様に避けられないものである。産業の進歩を逆転させて、人間を手織り物の時代に戻そうとするのは、地軸を中心とする地球の動きを逆転させようとするようなものだ。

B.

全訳

①いかに呼吸すべきかとか、いかに血液を循環させるべきかを、他人に明確な方法で言える人などいないのと同様に、どのように考えるべきかを他人に明確に言える人は誰もいない。しかし、人々のさまざまな考え方は、その一般的な特徴で伝えることも、表現することもできる。こういった人間の考え方の中には他よりも優れたものもある。そしてそれらの考え方がなぜ優れているのかを示すことはできる。②より優れた考え方が何であり、それがなにゆえに優れているのかがわかっている人は、そのつもりになれば、自分独自の考え方をもっと効果的になるまで変えることができる。すなわち、思考によって行うことができるような、他の知能の働きではあまりうまくできないような仕事をよりうまくできるようになるまで、自分独自の考え方を変えることができるのである。

C.

全訳

外国語の学習ほど文化的視野を広げてくれる経験はない。世界には、我々と違ったやりかたで物事をする人々がいるのだということを、これほどはっきり納得させてくれるものはない。

D.

全訳

より有益なのは、スチュアート・ヒューズの提唱する「欧州は米国の影響を受けていたというよりも、むしろ自らの意志で米国が1世代前に追求していた道を進んでいたのである。消費水準は向上し、生活は民主化されつつあった。この2つの要素が達成されてしまえば、後はほとんど何の手を加えなくとも自然に『米国化』へ向かってひた走ることになる。」という説である。

【2】

解答

- (1) a, d, g (2) d
(3) ① a ② c

(4) 「全訳」の下線部(c), (d), (f), (g), (h), (i), (j)を参照。

(5) A a B c C d

解説

- (1) a 「たとえ世界中の人々が共通語を話しても、意思伝達の問題のすべてが解決されるわけではない。」〔ℓ. 12 ~ 13 に合致〕
b 「ある文化の人々が考える内容は、価値体系ではなく言語のみに影響される。」
c 「現代の同時通訳のおかげで詩は国際的な言語となった。」
d 「我々は文化間の思考様式の違いを認識するべきである。」〔ℓ. 23 ~ 24 に合致〕
e 「翻訳の質が上がるにつれ、詩は世界中の人々に同じように理解されることが出来る。」
f 「我々は意思が伝達できないという問題を解決するために共通語を確立しなければならない。」
g 「文化は言語の違いによってよりも、価値体系の違いによって区別される。」〔第2段落の内容に合致〕
h 「言語の壁は、ヒンドゥー人とアメリカ人の間の意思伝達を成功させるための、唯一まだ解決されていない問題である。」
i 「ヒンドゥー語と英語は根本的には異なっていない。」
j 「人類全体の共通語の達成は、将来において有望である。」
- (2) この means は「手段；方法」の意を表す。選択肢の意味は次の通り。
a 彼女は嫌なことを言うけれども、悪意はない。v.
b 紙に書いてある象徴は「平和」を意味する。v.
c 彼はとても卑劣な性格をしている。adj.
d 私には明日そこへ到着する手段がない。n.
- (3) (b) formidable「恐るべき；手強い」
(e) ultimately「①結局；ついに ②（文全体を修飾して）究極的には」
- (4) (c) ○ there will always be left ~ 「常に～が残されるだろう」
that は (a rich residue of) meaning を先行詞とする関係代名詞。
○ defy「～を無視する；拒む」
○ translation from one language to another（ある言語から別の言語への翻訳）
- (d) The emotional bonds *that* exist within language communities（言語集団内に存在する情緒的結束）〔文全体の主語〕
○ are always different from and stronger than ~（常に～と異なり、～よりも強い）〔from と than の両方が～につながる〕
○ the bridges *that* may be constructed across gaps of linguistic differences（言語の違いという隔たりに掛けられる橋）
- (f) in time to ... 「…するのにちょうどいい時に；間に合って」
○ help much with ~ 「～を大いに助ける」
○ the problems *that* press urgently upon us「我々にのしかかる切迫した問題（の解決）」press upon ~ 「～に圧迫を加える；重くのしかかる」

- ⑧ mankind is separated less by A than it is by B 「人間は A によってよりも B によって隔てられている」
- than it is (separated) by cultural differences と補って読む。
 - grievous though they are 「それら（言語の障壁）は重大だけれども」
- 〔形容詞（名詞・副詞）+ though [as] + S V （…だけれども）という譲歩表現の挿入〕
- ⑨ 強調のため not only が文頭に出たことにより倒置が起こっている。
- not only A but (also) B 「A だけでなく B も」
 - alike 「同様に」
 - more importantly 「(文頭で) さらに重要なことには」
 - cf. most importantly 「最も重要なことには」
- ⑩ The ways in which the mind of a Hindu differs in its workings from the mind of an American (ヒンドゥー人とアメリカ人の物の考え方の働きにおける異なり方) 《直訳》
- the ways in which = how 「…の仕方；方法」
 - mind 「①心，精神，物の考え方 ②知力，知性 ③意見 ④記憶」
- ⑪ all the 比較級「それだけいっそう；ますます」
- urgent 「緊急の」 cf. urge (せきたてる)
 - what the differences are and why they exist 「違いは何で，なぜそれら〔違い〕が存在するのか」

(5) A 違う言語を話す人々は

- a 異なった考え方をする人が多い。
- b 詩を通してしか理解し合えない。
- c 互いの約束を守れない。
- d 意思伝達をするために贈り物を交換しなければならない。

B 詩は

- a 人々に共通語を話させることができる。
- b 現代の同時通訳という手段を使うことによって正確に翻訳できる。
- c 元の意味のいくらかを失わずにはとても他の言語に翻訳できない。
- d 世界のすべての言語共同体に同じ価値体系を与える。

C 考え方の違いは言語の違いより理解するのが難しい。なぜならば

- a 誰も考え方の違いを研究したことがないから。
- b 考え方の辞書はないから。
- c 考え方の違いを研究する必要があったことがないから。
- d 考え方はそれぞれの文化により深く根づいているから。

全訳

現代の同時通訳のおかげで，言語の壁はそれ自体としては実際，昔よりも手強いものではなくなくなってきているようである。もちろん⑩ある言語を他の言語へ翻訳する際には，言い表せない多くの意味が残る。ロバート・フロストの次のような格言には確固たる真実がある。

「詩は翻訳の届かない領域である。」④言語集団内に存在する情緒の結束は、言語の違いという隔たりに架けられる橋とは常に異なっていて、さらに強いものである。人類全体が共通語で話せるようにできれば非常に便利であろうということを否定する人はいない。しかし我々は、この理想がいつか達成される見込みはないことも認識している。たとえその達成が結局はあり得るとしても、⑤それはきっと我々にのしかかる切迫した問題の解決に大いに役立つうちにはなされないだろう。

しかしたとえ何かの奇跡で、この共通語を話す才能を何とかして突然に得ることができても、意思を伝達できないという基本的な問題は解決されないだろう。というのは⑥人間は言語の違い（それも重大なのだが）よりも、文化の違いによって隔てられているからである。⑦我々は同じように話さないだけでなく、もっと重要なことには同じように考えないのである。個々の共同体は皆それぞれの価値体系を持っている。すべての文化にはそれぞれの考え方があり、また、それぞれの文化が選ぶ思考の内容を構成する、選ばれた関心の領域がある。⑧ヒンドゥー人とアメリカ人の考え方の違いはヒンドゥー語と英語の違いよりももっと複雑で根本的なのである。伝統的な思考様式の型は言語の違いよりもずっと根が深い。我々はより幅のある言語能力を切に必要としているが、共通の理解や見識の方がそれよりもさらに必要の度合いが大きい。そして我々は共通の価値体系を現在分かち合えないが、また、将来も分かち合えないかも知れないが、⑨我々はそれだけいっそう緊急に違いが何で、なぜその違いが存在するのかをはっきり理解する必要がある。

注

- ℓ. 1 ◇ simultaneous 「同時の」
 - ◇ linguistic 「言語の」
 - ◇ as such 「そういうものとして；それ自体では」
- ℓ. 4 ◇ staunch 「信頼に足る；頑強な」
 - ◇ the saying of Robert Frost that … 「…というロバート・フロストの格言」
 - that は同格節を導く接続詞。
- ℓ. 7 ◇ it *would* be ~ if the whole human race *could* be … 仮定法過去。
 - if the whole human race could be brought to speak a common tongue 「人類全体が共通語で話せるようにできれば」
 - bring O to … 「Oに…するようにさせる」
 - tongue [tʌŋ] 「①舌 ②言語」
- ℓ. 9 ◇ the probability of this ideal ever being achieved 「この理想がいつか達成される見込み」
 - this ideal が being の意味上の主語になっている。
 - 「いずれ、いつか、もし…するようなことがあれば」の意を表す ever。

次のような場合の従節で用いられる。

 - ① if 節内。
 - ② 主節が否定文で think, say など発言や思考・認識を表す動詞が用いられている場合。
 - ③ 主節の形容詞・動詞が否定的意味を持つ場合。
 - ④ 従節に話し手の否定的な態度が含蓄される場合。

- ⑤主節が疑問文で think, say など発言や思考・認識を表す動詞が用いられている場合。
- ◇ less than promising 「ちっとも見込みがない」
- less than 「①～より少ない ②（形容詞を修飾して）決して…でない；ちっとも…でない」
- ℓ. 10 ◇ conceivable 「想像できる；ありそうな」 cf. conceive *v.*
- ℓ. 13 ◇ incommunicability 「伝達できないということ」 cf. incommunicable *adj.*
- ◇ thereby 「それによって；それに関して」
- ℓ. 16 ◇ Every culture has its own modes of thought and its own selected interest areas which … 「すべての文化は、独自の考え方と…のような選ばれた関心の領域がある」
- mode 「流儀；方式」
- interest areas 「関心の領域」
- ℓ. 17 ◇ constitute the subject matter it chooses to think about 「それ〔文化〕が考えようと決める内容は～から成る」
- subject matter 「主題；内容」
- subject matter (that) it chooses to think about と関係代名詞が省略されている。
- ℓ. 20 ◇ mould = mold 「①型 ②鋳物 ③性質」
- ℓ. 21 ◇ rooted 「根づいた；根深い」
- ◇ in need of ～ 「～を必要として」

【3】

A.

解答

- (a) (1) He is inferior to his brother in scholarship.
- (2) The more money you make, the more you spend.
- (3) A whale is no less a mammal than a horse is.
- (b) (1) This problem was less difficult than that one.
- 別解** This problem was not as [so] difficult as that one.
- (2) Shakespeare is the greatest dramatist that the world has ever produced [known].
- (3) He is no better than a common criminal.
- (c) (1) The more technology develops, the smaller the world becomes.
- (2) The more you have, the more you want. That is why you have to learn to be satisfied (with what you have).

解説

- (a) (1) 「学問にかけては」は「学問において」と考えて、in scholarship とする。
- 「～にかなわない」は、前置詞の to が与えられているので、be inferior to ～（～に劣る）というラテン比較級の構文を用いればよい。もし、he の代わりに him が与えられていれば、His brother *is superior to* him in scholarship. が正解となる。

- (2) 日本文を見れば、「～すればすれほど、ますます…」を表す“the + 比較級 ～, the + 比較級 …”の構文を用いればよいことがわかる。

「お金を稼ぐ」は make money, 「お金を使う」は spend money (「有効に使う」という意味合いなら use money, 「浪費する」の意味なら waste money) を用いる。

文後半の the more (money) you spend の money は繰り返しになるので省略できる。ところで、(×) The more *you make money*, …とした人はいないだろうか。残念ながら、これは間違い。you make *much* money の much が more となり、文頭にシフトされて the が付いたと考え、The more money you make, …としなければならない。

- (3) 「クジラは馬と同様、哺乳動物だ」は、「馬が哺乳動物であるように、クジラも哺乳動物だ」と考えて、“A is no less ～ than B”の構文を用いる。than 以下には、誰が考えても明らかに肯定的な内容がくる場合には、more ではなく less を用いる点に注意。

Ex. I am *no more* a Masakazu Tamura *than* you are a Kyoko Koizumi.

(あなたが小泉今日子でないように、私も田村正和ではない。)

- (b) (1) 難しさの度合いが this problem < that problem で、this problem を主語とする文を作る問題だが、1つは、“A is not as [so] ～ as B” (AはBほど～ない) を用いて、This problem was *not as [so] difficult as* that one. とすればよいのは中学で学習済み。もう1つは、less 概念を用いて、This problem was *less difficult than* that one. とすればよい。
- (2) 「～のような…はいまだかつて存在しない」は、「～は世界がこれまでに生み出した〔知ってきた〕中で最大の…だ」と考えて、～ is the greatest … that the world has ever produced [known] とする。なお、～ is *as great a … as ever lived* とすると、「～は非常に優れた…だ」の意味で、最上級の意味はない。
- (3) 「～は…とちっとも変わらない」は、no がすでに与えられているので、センター試験でもよく出題されている“～ is no better than …”の構文を思い付くのはそう難しくはない。

「そこら辺にいる」は「ありふれた」と考えて、common, ordinary など。

「犯罪者」は criminal, offender, malefactor, wrongdoer, culprit などを用いる。ところで、この“～ is no better than …”がセンター試験で出題された時、「こんなのは和製英語で、英米人は絶対に使わない」といった感情的な声が上がったが、とんでもないことで、この表現は容認率がビジネスライターでは 81%, くだけた会話では 99%, 改まった会話では 70%というれっきとしたイディオムである。アメリカ人インフォーマントが作った例文を挙げておこう。

Ex. Honestly, this so-called expensive high-class restaurant is *no better than* McDonald's. (正直に言って、このいわゆる高価な高級レストランはマクドナルドと全然変わらない。)

- (c) (1) 「科学技術が発達すればするほど、ますます地球は小さくなる」と考えて“the + 比較級～, the + 比較級…”の構文を用いる。

「科学技術」は technology, 「地球」はここでは「人間の生活の場としての地球」なので, the world [globe] を用いる。

- (2) 全体の主語は you [we: people] とする。「欲望は持てば持つほど増大する」は, “the + 比較級~, the + 比較級…” の構文を用いて, The more you have, the more you want. とすればよい。

また, 「欲望」を desires として, 「欲望を多く持てば持つほど, その欲望は増大する」と考えて, The more desires you have, the more they increase. とすることもできる。「だから, …」は So ..., That's why ..., Therefore ... など。That's why ... を過度に用いる高校生・教師が多いので使い過ぎないように。「満足することを知らねばならない」は, you have to learn to be satisfied でも十分だが, 満足する内容を付け加えて, ~ be satisfied with what you have としてもよい。

B.

解答

- (1) A : The larger a house is, the better (it is).
B : Really? The larger a house is, the harder it is to clean it (up).
(2) A : Would you like some more bread?
B : No [No more], thank you. I've had more than enough.

解説

- (1) 「家が広い」は large, 「狭い」は small である。したがって, A の発言は, “the + 比較級~, the + 比較級…” の構文を用いて, The larger a house is, the better (it is). となる。

「そうだろうか」は Really?, No kidding?, You don't say?, That's debatable. など で表す。

「広いほど掃除が大変だよ」は, 再び “the + 比較級~, the + 比較級…” の構文を使って, The larger a house is, the harder it is to clean it (up). となる (It is hard to clean it (up). の hard が harder になって, 文頭にシフトしたと考える。これは盲点)。

- (2) 「もう少し~はいかかですか」は, Would you like [care for] some more ~?, Won't you have some more ~?, How [What] about some more ~? で表す。

「いいえ, 結構です」は No [No more], thank you. が決まった言い方。

「もう十二分にいただきました」は, 「十二分の; 必要以上の; 多すぎるほどの」の意味の慣用表現である more than enough を用いて, I've had *more than enough*. とし てもよいし, 「比較級を用いて」という指示がなければ, I've had enough. だけでも よい。要は, このような会話での慣用的なフレーズは, あまり考えなくてもすぐに口 から出るようにしておくことである。

C.

ポイント

イラストや漫画について意見などを述べさせる形式の「ビジュアル型」自由英作文である。実際の取り組み方は個々の問題によって異なることが多く, 今回の問題では, 絵から読み取 れる要素をもとに自分の想像力・創造力を発揮する必要がある。何も面白おかしい解答を作

る必要はないが、あまりに発想に乏しい解答では採点官に与える印象もよくないだろう。想像力を鍛えるのは難しいが、今からでも書物や雑誌、新聞、テレビ、インターネットなどを通じて、普段から世の中のさまざまな出来事や人々を「観察する」ことを心がけてみよう。

解答例

The young woman is bothered by frequent phone calls from a persistent salesperson. He is so pushy that there is nothing she can do to stop him. (27 語)

別解

The woman has been suffering from a stalker's phone calls and faxes. The stalker somehow has found out her number every time she has changed it. She's almost in a panic. (31 語)

別解

The young woman is completely ignorant about anything mechanical. Something is wrong with the fax machine and it's been pouring out papers for hours. She doesn't know what to do. (30 語)

別解

The woman is a writer and is busy with her essays whose deadlines have already passed. She is getting many calls and faxes of reminders from editors. She's too tired to answer anymore. (33 語)

解説

まず、絵から客観的に読み取れる事柄から、妥当な、もしくは許容範囲と思われる解釈を試みる。

若い女性が精神的にひどくまいっている様子である。女性の傍らでは、電話が鳴り、FAXの紙が散乱している。女性の表情や仕草から、女性を悩ませているのは電話の音やFAXであると考えられる。

次に、女性が悩んでいる理由を考える。それには、どんな内容の電話なのか、電話をかけてきているのはどんな人なのか、なぜ鳴り続けているのか、なぜFAXの紙が落ちているのか、などについて想像力を働かせる。ここからは、ある程度自由な発想で考えればよい。

例としては、女性が嫌っている人物からの電話、しつこいセールスの電話、いたずら電話、間違い電話などが考えられよう。あるいは、ストーカーからの嫌がらせかもしれない。また、女性は作家で、原稿催促の電話などが殺到して嫌になっている、FAXが壊れて紙が出続けて困っているなどとする 것도 できよう。

以上の骨格のみを説明するだけでは20語以下に収まってしまうと思われるので、ある程度、詳細を肉付けしてふくらませる必要があるだろう。

- 「～に悩んでいる〔苦しんでいる〕」be bothered by ～; be annoyed by ～; be disturbed by ～; suffer from ～など。最初の3つは‘～’を主語にして能動態でも表せる。

Ex. It really *annoys* me when you act so selfishly.

(君がそんなに自己中心的に振る舞うと、本当にいらいらするんだ。)

- 「～にうんざりしている」 be tired of ～；be sick and tired of ～：後者は前者を強調した言い方。
- 「気が変になりそうだ」 be almost in a panic；be going crazy
- 「しつこい電話」 frequent (phone) calls；calls from an insistent [persistent] person
- 「販売員」 salesperson
- 「～に電話が殺到する；電話が引きも切らずかかってくる」 hundreds [lots；numbers] of calls pour into ～；get calls one after another
- 「迷惑 [いたずら] 電話」 nuisance [prank] calls
- 「間違い電話」 a wrong number 「番号をお間違えですよ。」 という場合は You have the wrong number. のように定冠詞が付く。
- 「ストーカー」 a stalker
- 「悪意を持った人物」 a malicious person
- 「誘いを何度も断る」 turn down one's invitations many times [again and again]
- 「電話番号を突き止める」 find out one's (phone) number
- 「機械に疎い；機械音痴である」 be ignorant about [no good with] anything mechanical
- 「ファックス」 fax；fax machine
- 「原稿」 essay (随筆；評論), article (記事；論文)

【4】

解答

- (1) His monthly salary is higher than *that* of the Prime Minister.
- (2) She is *more* shy than unsociable. **別解** She is *shier* than *she is* unsociable.
- (3) Mary is *the* taller of the two.
- (4) I prefer the *latter* expression *to* the former.
- (5) Most people can read *more* *easily* than they can write.
- (6) not 不要
- (7) much → many
- (8) less → fewer
- (9) ○
- (10) something more as → something more *than*

解説

- (1) 「彼の月給は、総理大臣より上だ。」
比較の対象は同じ種類のものでなければならない。[that = the monthly salary]
- (2) 「彼女は非社会的というより内気だ。」
同一の人や事、物について、その異なる特性を比較する場合は、more ～ than を用い、rather than と同じ意味を表す。[= She is shy *rather than* unsociable.]
than の後の「主語 + be 動詞」を省略しない場合は -er 形も用いられる。
- (3) 「2人のうち、メアリーの方が背が高い。」
「二者のうち一方の方がより～」の意味を表す時は、“the + 比較級”を用いる。

- (4) 「私は最初の表現よりも後の表現の方が好きだ。」
late には比較級・最上級とも2つずつある。「(時間が) 遅い；遅く」の場合は later, latest を用い, 「(順序) が遅い, 遅く」の場合は latter, last を用いる。
prefer (～をより好む) は than ではなく to をとる。
- (5) 「ほとんどの人は書くよりも読む方が簡単にできる。」
潜在する文は, (×) Most people can read easy ではなく, Most people can read *easily*。
- (6) 「彼の態度は耐えがたいほどのものだった。」
私が耐えられる範囲を超えていた, という意味なので not は不要。
- (7) 「観客のためにもっと多くの椅子が必要だ。」
「ずっと多い」の意では“many more + 複数名詞”または“much more + 不可算名詞”となる。
ただしこの many は, 実際は差を表す副詞であり, 比較級を強調している訳ではない。
- (8) 「ホテルでは今夏の旅行客は昨年より少ないとの報告をしている。」
可算名詞の場合 less (< little) ではなく fewer を用いる。
- (9) 「田中氏は非常に学識のある紳士だ。」
不定冠詞のついた最上級は very の意味を表す〔絶対最上級〕。
○ learned [lɜːnɪd] 「学識のある」
- (10) 「イギリスでは, 学校は学問を学ぶ場所以上のものとして見られがちであるが, フランスでは違う。」
more には than が続く。前にある as は see A as B (AをBとして見る) の as。

【5】

解答・解説

- (1) as many books as, the number of
○ X times as ～ as … 「…のX倍～」
目的語がある場合は as ～ A as …の語順をとるので注意。
○ X times the size [length; height; weight; number] of ～ 「～のX倍の大きさ〔長さ; 高さ; 重さ; 数〕」
- (2) the best, As far as
○ To the best of A's knowledge = as [so] far as A knows 「Aの知る限り」
- (3) no less
○ A is no less ～ than B is 「AはB同様～である」
- (4) as many
○ as many 「同数の」
- (5) none the, for
○ none the 比較級 for ～ 「(～だからといって) それだけ…ということはない」 → 「～にもかかわらず…」
cf. all the 比較級 for + 名詞 [because + 文] ～ (～なのでそれだけいっそう…)

E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



Z-KAI

会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--

不許複製